



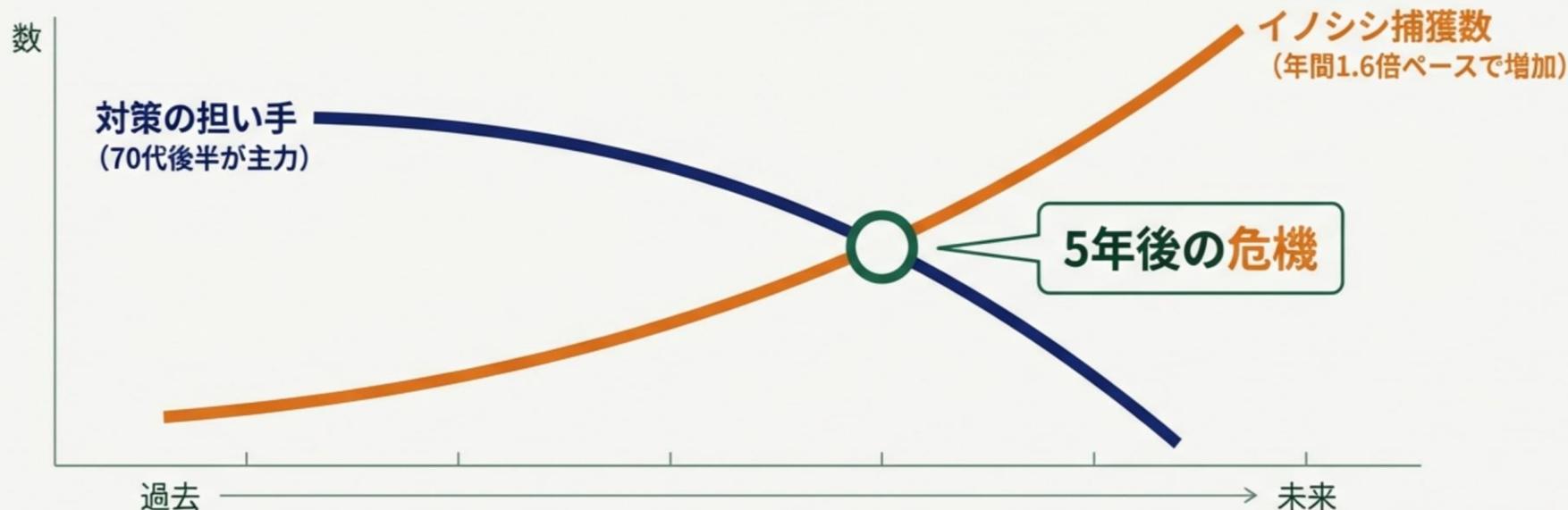
「獣害対策」を「地域の価値」へ変える人材活用

～ 千葉県南房総におけるジビエ・里山保全を通じた関係人口創出～

第13回全国鳥獣被害対策サミット

合同会社アルコ 沖 浩志

南房総の現状：迫りくる「限界」



担い手激減 × 獣の増加 = 対策の崩壊

南房総ではイノシシが急増している一方、地域の防衛ラインを支えるのは「団塊の世代（70代後半）」です。5年後、彼らが山に入れなくなった時、現在の対策は物理的に破綻します。構造改革が急務です。

解決策：「外部人材」 × 「翻訳」



現場の「リアル」を都市の「価値」へ変換する

地域内のマンパワー不足を、都市部の「関係人口」で補います。しかし、そのままでは人は来ません。現場の「困りごと」を、都市の人々が欲しが「体験」や「価値」ある言葉に変換（翻訳）する機能が不可欠です。



事例① シェア里山 「YAMANA HOUSE」

草刈り・道作り → 「大人の開拓遊び」

CONCEPT

裏山を会員制でシェアする

TRANSFORMATION

地元の「辛い労働」が、都市住民の
「クリエイティブな遊び」に変わる

RESULT

都市住民が楽しみながら出入りすることで、結果として荒廃した裏山が整備され、獣の隠れ場所がなくなります。



【費用】

年間8.8万円（開始月から12ヶ月間）

※一ヶ月あたり7,333円

※2年目以降継続の場合は6.6万円/年（一ヶ月あたり5,500円）

※U-35割→「2割引」の70,400円（申込時に35歳以下）

学割→大学生、専門学生、小中高生は「5割引」、幼稚園以下は「無料」（保護者同伴）

【内容・特典】

・「ヤマナハウス月例アクティビティ」への参加

※タイミングが合うときに自由参加する形式

※月例時に使用する部材等は準備、工具農具や調理器具などは貸与します

※最寄り駅やバス停からの送迎もできます

・コミュニティに参加（オフラインとオンライン）

※月例活動以外にメンバー用LINEグループもあります

※メンバーだけの交流イベントも時々開催します

・宿泊利用権

※月例活動の際に宿泊できます（貸切予約が入ってないとき）

・イベント企画開催権

※ヤマナハウスでのイベント・プロジェクトを行いたい場合に企画開催可能です（条件は都度相談）

事例② 館山ジビエセンター

「害獣」から「地域資源」へ



害獣
(Pest)



ナラティブ（物語）の付加



地域資源
(Regional Resource)

「ドングリを食べて育った」というストーリー

成長率: 開業1年で約350頭 → 現在年間600頭ペース

厄介者を地域の特産品に変え、経済循環を生みます。単に処理するのではなく、捕獲個体にストーリーを持たせることで付加価値を高めています。



区分		R3	R4	R5
施設利用件数	目標	115	300	400
	実績	125	377	518
	前年対比	-	302%	137%
内訳	捕獲者が自ら解体	0	0	0
	解体代行	0	0	0
	指定管理者が引取り解体	125	377	518

区分		R3	R4	R5
① 収入 (自主事業除く)	予算	335	1,250	1,250
	決算	335	1,250	1,250
	前年対比	-	373%	100%
内訳	指定管理料	335	1,250	1,250
	施設利用料	0	0	0
② 支出 (自主事業除く)	予算	335	1,250	1,250
	決算	358	1,624	1,611
	前年対比	-	454%	99%
内訳	給与等	257	1,384	1,187
	通信費	8	14	12
	リース料	7	32	32
	修繕費	21	4	29
	水道光熱費	0	89	112
	燃料費	17	23	34
	消耗品費	43	71	157
	租税公課	-	-	12
	管理諸費	5	7	14
防災保守等	-	-	22	
③ 収支A (自主事業除く)	予算	0	0	0
	決算	-23	-374	-361
	前年対比	-	***	***

区分		R3	R4	R5
① 自主事業収入	予算	6,090	11,415	9,953
	決算	1,616	11,108	18,147
	前年対比	-	687%	163%
事業ごと	精肉(小売)	438	2,090	4,428
	精肉(卸)	1,178	8,837	13,328
	営業外収益	0	181	391
② 自主事業支出	予算	4,504	11,378	14,052
	決算	3,255	13,151	17,860
	前年対比	-	404%	136%
事業ごと	仕入(肉買取等)	503	451	2,105
	給与等	1,309	5,926	6,019
	法定福利費	148	608	632
	福利厚生費	-	-	5
	外注費	706	386	849
	旅費交通費	4	456	526
	通信費	34	121	106
	交際費	0	3	211
	減価償却費	0	1,192	1,318
	賃借料	0	31	8
	地代家賃	0	210	210
	リース料	29	285	285
	保険料	0	143	129
	修繕費	82	38	261
	水道光熱費	0	801	1,011
	燃料費	67	209	303
	消耗品費	173	639	1,411
	租税公課	-	-	107
	荷造包装費	173	609	1,470
	広告宣伝費	0	76	139
雑会費	0	85	262	
管理諸費	19	60	131	
防災保守等	-	-	203	
書籍費	-	-	63	
雑費	8	808	95	
営業外費用	0	14	1	
③ 自主事業収支B	予算	1,586	37	-4,099
	決算	-1,639	-2,043	287
	前年対比	-	***	***
収支合計(A+B)		-1,662	-2,417	-74

人材活用の秘訣①：コーディネーターの介在

現場の「不安」と都市の「リスク」を解消する



意欲ある人をいきなり現場に入れてはいけません。「どこの誰だかわからない」という地元の不安と、参加者の事故リスク。この2つを解消する調整役（クッション）の配置が、持続的な受け入れの必須条件です。



人材活用の秘訣②：課題の「翻訳」

「労働」を「コンテンツ」に書き換える

Translation Dictionary

BEFORE (Local Burden)		AFTER (Urban Value)
 草刈り・道作り (Grass Cutting)	→	 「大人の開拓遊び・フィットネス」 
 害獣駆除 (Pest Control)	→	 「命をいただく食育・ナラティブ」 
 荒れた山 (Rough Mountain)	→	 「企業研修のフィールド」 

「草刈りを手伝って」では人は来ませんが、「古民家の裏山を開拓する大人の遊び」と言い換えれば、お金を払ってでも参加したい人が現れます。



人材活用の秘訣③：「関わりしろ」の多様化

銃を持たない「担い手」を増やす



全員に銃を持たせる必要はありません。企業には研修、若者にはレジャーと、相手のニーズに合わせて入り口を複数用意することで、関係人口の幅は劇的に広がります。

工藤阿須加が行く
農業 始めちゃい
ました
のち さん 山 さん



田口さんが手がけた料理を堪能

目指す未来：「対策」から「共創」へ

獣害対策は、新しい人の流れを作る最大のチャンス。



目指すのは、都市の若者や企業が「楽しみながら」関わり続ける未来。
50年後も人と自然が笑い合える地域を作る。

《人口減少》
荒れた森 耕作放棄地 空き家

獣害

課題

里山コミュニティ

山の整備・活用

耕作放棄地や
空き家の活用

ふるさと返礼品

飲食店の活性

イベント・体験

観光客の誘客

関係人口の形成

獣害対策

対策

肉

革

骨

内蔵

活用

ジビエ料理

革製品

肥料 アート作品

還元

振興

消費



まとめ

1. 「厄介者」こそが「地域の資本」である
2. まずは、地域の課題を「翻訳」することから
3. 百聞は一見にしかず

Call to Action

館山の現場（YAMANA HOUSE・ジビエセンター）へお越しく下さい。血の通った現場の空気こそが、何よりのヒントになります。



合同会社アルコ
沖 浩志